



年頭のごあいさつ

北海道林産技術普及協会

会長 高橋二郎

昭和61年の新春を迎えるに当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、ご家族ともどもご健勝にて新年を迎えられましたことと、心からお喜び申し上げますとともに、一層のご繁栄を祈念申し上げる次第です。

さて、私は、昨年11月6日に開催されました当協会の第21回通常総会において、新しく会長に選任されました。誠に重責に感じており、身の引き締まる思いでございます。浅学非才ではございますが、何卒ご高配の程お願い申し上げます。

村上前会長さんは、当協会が社団法人認可されました昭和41年から副会長、同53年からは会長として満7年間、この協会の発展のために、ご貢献いただきましたことについて、深甚なる謝意を表します。今後も理事として当協会の運営にいろいろアドバイスいただけることを誠に幸いに存じております。

一方、当協会の事業推進上、密接な関係にある北海道立林産試験場が、業界のかねてからの要望がかなって、移転先の西神楽に今盛んに建設の槌音をたてていることは、誠に喜ばしいことです。

今年秋には、新庁舎に引っ越されると承っておりますが、北海道の主要産業である林産業の発展の基礎づくりのため今後ともご貢献いただきますよう、ますますのご発展を願ってやみません。

昨今の林産物に対する市場開放、日本への輸出攻勢は非常に強くなっております。また、貿易摩擦解消の一環として、外国為替の変動が著しく、ドル安円高傾向が毎日のようにニュースとして伝えられております。恐らく円高は定着するのではないかと推測いたします。

このような激動期に、日本木材加工技術協会の機関誌“木材工業”の11月号に「構造転換期の木材企業」特集号が出ております。誠に時宜をえた記事であり、つぶさに拝見いたしました。

最近、木造建築の比率が50%を切るような木材ばなれ、木材不況を迎えております。このような背景から、今後の林業・林産業について、新しい視点からの発想で展開せざるをえない段階にきたと考えております。

このような時期にあたり、北海道立林産試験場が今まで蓄積された技術・ノウハウを是非業界に下ろしていただき、さらに新しい技術要請にこたえられ、林業・林産業を取り巻く現状の打破にお力ぞえ願いたいと考えます。

当協会としては、業界の皆様方の意向をくみ上げ、その役目をはたしてまいりたいと考えておりますので、当協会の役員の方々、会員の皆様方には一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

一言、所見を申し述べ新春のご挨拶といたします。